令和４年度旭川未来会議２０３０農業分野　第３回分野別会議　会議録

１　開催日時　　令和４年１０月１７日（月）　午後６時３０分から午後８時４０分

２　開催場所　　旭川市水道局庁舎４階　第２会議室（旭川市上常盤町１丁目）

３　出席者（参加者）　　鹿野　剛，川村　さくら，佐藤　絢也，佐藤　まどか，佐野　敏子
清水　光子，高橋　直人，谷越　亜紀，野﨑　達也，守屋　大輔
※敬称略，五十音順

４　出席者（市側）　　（運営事務局）
農政部　金次長
農政課　田中課長補佐，皆川農政係主査
農業振興課　杉山課長
（統括事務局ほか）
広報広聴課　山本広聴係長，乙坂広聴係主査
政策調整課　廣岡主査

５　会議の公開・非公開　　公開

６　傍聴者　　なし

７　意見交換
議題「米プラスの産地づくりーわたしたちが描く，２０３０年のあさひかわ農業ー」について

⑴　テーマについて再確認について
資料のとおり，「米プラスの産地づくりーわたしたちが描く，２０３０年のあさひかわ農業ー」というテーマのもと，「旭川は北海道一の収穫量を誇る米どころ。しかしながら，米の消費が低迷しているほか，高齢化，担い手不足，コロナ，資材高騰等々，様々な課題に直面している。
こうした中で，旭川の農業をさらに発展させ，将来にわたって魅力ある産地づくりを進めていくため，米どころという強みに加えて，旭川の農業にとって「プラス」となる新たな取組や可能性について議論した。」という内容を再確認し，特に意見はなかった。

⑵　２０３０年の旭川のあるべき姿（案）及びあるべき姿（案）を考えた理由について
資料のとおり，あるべき姿を「私たちが，次代の人たちが，楽しく農業をし続けているまち」，あるべき姿（案）を考えた理由を「ＳＷＯＴ分析の結果を踏まえ，あさひかわ農業を将来にわたって持続的に発展させていくためには，まず，旭川に目を向けてもらい，あさひかわ農業のファンを増やしていくことが重要ではないか。
それを実現するには，何より２０３０年も私たちが，次代の人たちが，楽しく農業をし続けていることが必要である。

人は楽しそうにしていること・ところに興味を持ち，魅力を感じ，惹きつけられる。惹きつけられた人は，旭川に目を向け，知り，訪れ，あさひかわ農業や農産物のファンとなり，定着するという好循環が生まれると考えた。」という内容で合意となった。

⑶　意見の整理

これまで出された意見（具体的な取組）について，「儲かる農業」，「見せる農業」，「繋がる農業」の視点，さらに，それぞれに関する取組の方向性ごとに分類し，３つの視点や８つの方向性による分類は妥当か，具体的な取組として意見とするかしないか，意見とする場合，表現を変更する必要はあるかないかといったことを方向性ごとに意見交換した。

○　視点①「儲かる農業」

●　方向性1「新たな品目へのチャレンジや生産拡大」

（参加者）

・具体的取組に「栽培可能地域が北上し，アジア圏からの注目度も高いさつまいもの生産拡大」とあるが，さつまいもだけではなく，ほかにオクラとかもあるので，さつまいもの後ろに「など」をつけてはどうか。

（参加者）

・生産拡大の仕方に何か文言を付け加えたい。

・旭川の中でもＪＡが分かれていて，ＪＡ単位だと，地域的に得意・不得意があるので，ＪＡごととかではなく，垣根を越えて，例えば大きな休耕地に生産者のみなさんが集まって作るだとか，生産拡大が中途半端にならないようにしたい。

・旭川市みんなで一つになって進んでいこうというイメージでやりたい。旭川市の強化品目や指定食材などと設定して，あさひかわ農業で作るという感じにはできないだろうか。

（参加者）

・その他の意見としている「旭川の畑は一面，〇〇だけ！！」にも関わってくる。方向性1に追加するか，その他の意見のままにするのか。

（参加者）

・品目を書いてしまうと，みんな，それだけを作らなくてはならないと受け取られてしまいそう。

（参加者）

・品目を限定するのではなく，旭川市が一丸となって新しい品目を生産拡大していこうという感じの方がいいということか。

（参加者）

・例として，こういう品目が考えられるが，それは要検討。という表現が一番いいかなと。

・品目を書いてしまうと，それに囚われてしまう。例えば，こういうことが他産地では取り組まれているという情報としてあるというような表現を括弧書きしていれるぐらいであればいいのかなと。

（参加者）

・他の分野とも一緒に考えられることなので，観光分野や子育て分野の方で，本当はもっとこういう野菜が食べられたらいいなとか言ってくれれば作ることができると提案する

というのもいいのでは。私たちは作る専門だが，旭川のみんなが何を求めているのか気になる。

(参加者)

・私たちは農業分野の専門だから，ＪＡが分かれていることも，その垣根の厳しさも分かっているが，他の分野の方も集まった時に，旭川は一つのものとして進んでいて計画を立てているというのが，前提になっていると思う。

・農協云々というのは出さなくても，そういうものを目指しているということで理解してもらえるのでは。実際，自分は農協とか取っ払った上で議論しているというイメージでやっていた。

・知っているからこそ，深く掘り下げてしまうだけかもしれない。

(参加者)

・そういうことであれば，生産拡大のままでいいと思う。

・ただ，品目を出してしまって本当にいいのか。

(参加者)

・品目は括弧書きでいいのでは。

(参加者)

・『競合相手が少なく，売れ行きも好調な寒締めほうれん草や雪の下にんじんなど冬季栽培野菜の生産拡大』の記載も括弧書きで品目を書く形でよい。

(参加者)

・それでは，２つの項目の表現を整理する形で修正する。

(参加者)

・その他意見に「スマート農業の技術革新」とあるが，スマート農業の良さが発揮されるのには，大区画化されたようなほ場であったり，田で麦やとうもろこしなどを作るよう言われているが，新たな品種を栽培するには基盤整備が必要である。

(参加者)

・田んぼは水はけが悪いので，米以外を作ろうとするなら，基盤整備や最低限，排水整備はしなければならない。

・さつまいもを田んぼで作れないことはないが，排水の関係もあり，簡単にできることではない。

(参加者)

・基盤整備は，その他の意見の「スマート農業の現状にあった技術革新」の文言修正ではなく，別に追加した方が良いのでは。

(参加者)

・先日あったＪＡ大会でも，基盤整備の強化が話題に上げられていた。

・全国的に基盤整備は追いついていない状態。特に旭川は，空知と比べると小さい田ばかりである。その辺をもっと強化してくれれば，１軒当たりの面積ももっと大きくなる。

(参加者)

・少しずつやってはいるようだが。

(参加者)

・やってはいるが，全然，追いついてない状態である。

・市にも税金負担してもらうことであるし，別立てで追加してもいいのではないか。

（参加者）

・米プラスワンというなら，なおさら基盤整備は大事な事業。

（参加者）

・生産性の向上にもなり，露地野菜の拡大にもなる。

（参加者）

・畦も幅が広くなり，農作業事故も起こりにくくなるかもしれない。

（参加者）

・基盤整備により，多品目栽培ができるほ場作りということか。

（参加者）

・米以外の穀物，野菜もできるようになれば，選択肢が広がり，生産性や品質も向上する。

（参加者）

・多品目栽培できるほ場作りをするために基盤整備の推進を図るという表現で記載するか。

（参加者）

・多品目栽培や品質向上なども入れ，収量向上を図るために基盤整備を推進という表現がいいのでは。

（参加者全員）

・異議なし。

● 方向性2「無駄なく全て売り尽くす仕組づくり」

（参加者）

・先日，地域振興課の『まちなか無限大フォーラム』というまちづくりフォーラムに参加した際に，杉村太蔵さんが『ＣｏｃｏＨａｒｅｔｅ』の取組として野菜の規格外品を農家から直接仕入れて，無料で各店舗に配布し，各店舗で特別メニューを安く販売する企画をしていた。そういうものがもっと拡大するとよいと思った。

・集合施設で取りまとめしてやってくれると，受け取る方も売る方も楽ではないか。

・やり方や仕組みの話だけでも聞いてみたりするのもいいかも。それによって繋がりができたりするのでは。

（参加者）

・『旭川はれて』では，どのようにしているのだろうか。次もあるのだろうか。

（事務局）

・音威子府村の農家さんから規格外のかぼちゃやキャベツを農家さん側の言い値で購入し，各店舗でその野菜を使ったメニューを提供した模様。フードロス削減の取組として行ったとのこと。

（参加者）

・なぜ音威子府なのだろうか。旭川産の野菜で同じ事ができないか。

（参加者）

・「売る側（市場，販売者）が販売計画を立てやすくできるよう収穫量予測を共有」については，このままでいいか。

（参加者）

・市場の立場として意見させてもらえれば，例えば，このぐらい出るとかちょっと天気が悪いから１００出るものが半分ぐらいになるかもしれないという程度の話でいい。市場は農協から情報をもらうことになると思うが，その先にお客さんもいるので，大体の収量が分かれば非常に助かる。表現についてはこのままでよい。

(参加者)

・収量が予測できることで，単価が高くなる可能性も秘めている。

(参加者)

・就実地域ではブロッコリーを日付をずらして植えていくなどして，途切れずに出荷する取組をしている。

(参加者)

・露地野菜ではできるが，施設野菜だと難しい面がある。

(参加者)

・やっているのはブロッコリーだけだが，最初は５軒ぐらいから始め，ずっと続けている。

・最初の段階で単価を決めている。

(参加者)

・できることはできるのだが，農協からは正確な数字と言われるので，そうなるとできないと言うしかない。ざっくりした数ならできるのでは。

(参加者)

・自分の地域も，何年か前，チンゲンサイの出荷予定数を報告していたが，割りと若い人はできるが，年配の人は，来週のことは分かるわけがないという感じになり，自然消滅した経緯がある。いいものとは分かっているが，地域としてみんながやるかというと，なかなか難しいので，こういう場で言っていくのはいいかなと思う。

(参加者)

・若い人と年配の方の感覚の違いがあるから難しい。

・収穫してすぐに出すわけじゃなく，熱を持たないように冷やしてから出すものもあるので，どこか，集積・冷蔵する段階で，その日，入ったら原料から明日はこれぐらい出荷できるな，明後日はこのぐらい出荷できるなというのは大体見えてくると考えられる。このような方法でないと情報収集のやり方が難しい。

・地域各々にそれぞれの品目の情報を出してもらい，集めるというのはなかなか難しいので，ある程度，品種を絞り，大規模に作っているようなものに関して情報を集めるというやり方が，余剰やロスの管理も含めて，旭川の規模であれば現実的かと思う。

(参加者)

・難しいと思うが，共選所を１か所に絞ってしまうのが一番いい。

(参加者)

・そこまで詳しく書くよりは，将来こうなってほしいと書けばいいのでは。

(参加者)

・この方向性2「無駄なく全て売り尽くす仕組づくり」については，このままでよいか。

(参加者全員)

・異議なし。

● 方向性3「付加価値の向上」

（参加者）

・市外から来た人に旭川のどこを紹介するか迷う時がある。ラーメンやジンギスカン，新子焼き辺りしかないので，お米を使った何かを考えるのもいいかと思う。

・旭川に来た人に勧めるものを新たに一つ作って，色んなお店，居酒屋さんで提供するというのはどうか。例えば，テレビの取材が来て，旭川の名物を聞かれた時，お米の何かを答えられたらいいなと思った。お米の付加価値を上げられるように。

・今，銀座商店街で食べ歩きできる何かができないかと考えており，お米の新しい名物を考える会をやりたいと友人や飲食店の人と話をしている。試しに，五平餅を作ってみたが，お客様からの評判がよかった。そういうシンプルなものでいいと思う。やはり，みんなでお米を食べるのが一番いいと思っている。

（参加者）

・白いご飯ももちろん美味しいが，味の付いたご飯，炊き込みご飯などがはやっていると聞く。混ぜご飯や，栗ご飯など。先ほど話題に出たさつまいもから連想して，さつまいもご飯などもいいのではとイメージが湧いた。

（参加者）

・この方向性に「お米とか地場野菜を使った菓子開発」などと追加するのがいいと思う。

（参加者）

・「米粉の利活用拡大」に「米粉」だけではなく「米」を追加するか，新たに項目を追加するか。

（参加者）

・「地場野菜を使用した菓子開発など他業種（地元業者）とのコラボによる商品化」の「地場野菜」を「旭川の米や野菜」にしてはどうか。

（参加者全員）

・異議なし。

（参加者）

・ほかはこのままでよいか

（参加者全員）

・異議なし。

○ 視点②「見（魅）せる農業」

● 方向性4「市内外へのアピール力強化」

（参加者）

・やはり，市の広報誌に毎月とは言わないが，隔月でもいいので農業関連の記事を掲載してほしい。

（参加者）

・前回，広報広聴課長が来ていたので，恐らくやってくれると期待している。

（参加者）

・情報発信の部分はそのままでよいか。

（参加者全員）

・異議なし。

(参加者)

・旭川がデザイン都市になり，市の事業でデザインプロデューサーの育成事業を２年前からやっている。自分もそこでデザインの勉強を無料でさせていただいている。

・市民がデザインの力をつけてきているので，その事業で育成されたデザインプロデューサーと連携すると何か新しいアイディアが生まれるのではないか。

(参加者)

・生産者や行政などがデザインプロデューサーと会う機会というかコラボレーションするきっかけを作ろうという感じか。

(参加者)

・どういうＰＲをしていったらいいとか，広報誌の紙面作りとか，ＹｏｕＴｕｂｅでチャンネル作りとか，できることは色々あると思う。

(参加者)

・そういう存在があるというのは，知らなかった。たくさんいるのか。

(参加者)

・デザイン会社に勤めている人から，一般の人まで毎年５０人程がこの事業に参加している。

・色々な知恵が集まれば，できることが増えるのでは。

・旭川のＴｗｉｔｔｅｒを見てみると，『インバウンド観光課題解決マッチングイベント in 旭川』など色々やっているようなので，もっと一緒にできることがたくさんあると思う。

(参加者)

・「生産者とデザイン関係者とが繋がれるシステム作り」という感じで新たに追加する形がよいか。

(参加者)

・生産者よりは，農業がいいのでは。

・また，旭川はデザイン都市として決まったみたいなので，頭に「デザイン都市として」をつけてはどうか。

(参加者)

・旭川でデザインというと家具のイメージがある。

(参加者)

・去年まではデザインウィークは家具・木工でやっていたが，今年からは垣根を全部とっぱらい旭川の全てのものとデザインを繋げていくというように目的が変わった。今年からなので，まだまだ認知度がない。ちょうどいいのではないか。

(参加者)

・色々な分野と繋がっていきそうだ。

(参加者)

・新たに「デザイン都市として農業とデザイン関係者が繋がれるシステム作り」という表現で追加ということでよいか。

(参加者全員)

・異議なし。

（参加者）

・今まで話してきていない話題なのだが，公共交通機関，バスやタクシーなどに旭川米の広告を表示させる，例えばラッピングバスのようにできないか。

・市内でそれを多く目にすると，旭川市全体で米を推しているように感じられるのでは。

（参加者）

・山形県は将棋の駒の生産が１位であり，それをアピールするため，タクシーの屋根の上についている表示灯が将棋の駒の形になっているというのをテレビで見て，自分も同じように考えていた。旭川でもタクシーの屋根の表示灯を米や旬の野菜にしてＰＲすると目に付くのではないか。

（参加者）

・旅行者にいいＰＲになりそうだ。

（参加者）

・その他の意見に追加するか。

（参加者）

・見(魅)せる農業に新たに追加でいいのでは。

（参加者）

・デザインと組み合わせてやるのも面白そうだ。

（参加者）

・公共交通機関に生産物を・・などといった表現だろうか。そのように見(魅)せる農業に追加してよいか。

（参加者全員）

・異議なし。

● 方向性5「生産者や生産現場を知ってもらうきっかけづくり」

（参加者）

・何か意見はあるか。

（参加者全員）

・特になし。

○ 視点③「繋がる農業」

● 方向性6「環境への負荷低減」

（参加者）

・旭川は川のまちというイメージが強い。大雪山があって川があって，旭川はそれで農業ができていて，その環境はとてもいいと思っているので，環境を守っていくというテーマや目的は大切だ。

・ＳＤＧｓのモデル地区として，市として，どこの地区よりも先駆けてやるのはどうだろうか。

・旭川は北海道の真ん中に位置していて，４つのＪＡそれぞれの強みがあるので，それらを生かして近い中で循環できればいいと思う。旭川市とその周辺で環境負荷を軽減する

ための循環型農業を進めていくことがいいのでは。国も『みどりの食料システム』と言っているので。

・ただ，どこまで記載していいか難しい。

（参加者）

・循環という言葉は入れていいと思う。理解しやすい。

（参加者）

・持続可能という言葉も入れていけば，未来に繋がっていく感じがする。

・化学肥料を減らす，有機肥料を増やすという単純なものだけではないと思う。ロスを減らすとか，畜産物を利用するとか。実際，取り組むのは難しいが目指していくという意味で記載するのはいい。そういうことを目指していく都市になったらいいなと。

（参加者）

・難しい表現が多く，伝え方が難しい。どうやって言葉にしたらよいか。

（参加者）

・土壌診断で持続可能な農業と書いた方が分かりやすいのでは。

（参加者）

・これは以前，話していた，山間の条件が悪い場所は放牧地として畜産業をする，その家畜の糞は堆肥とする，その堆肥を使用し，平場では米はもちろん飼料作物などを育て農業をする，生産されたが出荷できない農産物はロスにならないよう家畜の餌になる，といったような畜産分野，穀物・青果生産分野と循環するイメージだが，簡潔な言葉にするのが難しい。

（参加者）

・『みどりの食料システム』という言葉を初めて聞いたので，今スマホで検索してみた。『みどりの食料システム』というのは，今話していることを内包しているので，この一言でいいような気がする。一般の人へは『みどりの食料システム』という言葉を説明すると分かりいいと思う。

（参加者）

・「みどりの食料システムを実践し，地球環境に優しい農業の実現」という感じが一番いいかと思う。それは何かとなった時，今話したような内容が出てくるので。

（参加者）

・その表現でよい。

● 方向性7「労働力不足への対応，農業人材の確保」

（参加者）

・何か意見はあるか。

（参加者全員）

・特になし。

● 方向性8「地産地消の推進」

（参加者）

・神居のりんご生産者で学校の食育に関する出前講座をしている方から，もっと野菜とか

他の農業生産者も学校で出前講座をしてほしいとの声があった。

（参加者）

・青年部の会議でよく言っている。近くに小中学校があり関わりを持ちたいと思っているので，学校へやりたいと話はさせてもらっている。

（参加者）

・学校側から要望が来ないことが多い。生産者側は学校に言っているが，学校側で時間が取れないようだ。

（参加者）

・地元の小学校ではずっと続けている。

・田んぼアートにも市街地の小学生が参加しているようで，やっている学校はやっている。

（参加者）

・地産地消を推進するなら，学校に行くよりは，生産現場に来てもらって，生で体験してもらう方が効果は高いと思う。

（参加者）

・郊外の学校よりは，市街地の学校がやってほしい。

（参加者）

・機会の頻度は田んぼに近い郊外の学校は高いと思うので，市街地の学校が農業の現場に来る方がいいと思う。

・なんてことない風景，育苗の様子とかを見てもらうことは農家以外ではない体験なので，そういうものを見てもらう方がいいと思う。

（参加者）

・新たな項目として「子どもたちに知ってもらう機会を多くする」などと追加してみては。

（参加者）

・学校の授業やカリキュラム，総合学習とかの中に入れてもらうのが一番いい。

（参加者）

・良いとか悪いとかではないが，実際にやっていくとなると学校と話合いが必要かと思う。どのように記載するのが適切か。

（参加者）

・食育も教育の一環なので，授業に入れてもらえると農家側も機会を提供できると思う。

（参加者）

・食育という言葉はとてもいい。

（参加者）

・「将来のサポーターづくりのための食育」という感じでは。

（参加者）

・その他の意見にある「食の重要性を多くの人に伝える（食育，朝ごはん給食）」を無くして，方向性8に「食の重要性を多くの人に伝え，将来のサポーターになってもらう」というような感じで追加してはどうか。

（参加者）

・いいと思う。

（参加者）

・では，地産地消の推進ということで，「食の重要性を多くの人に伝え，将来のサポーターを増やす。」を追加する。

○　その他の意見

（参加者）

・朝ご飯におにぎりを食べてほしいという願いがあり，自分たちが収穫したお米を「朝，おにぎりにして食べよう」とかできたらいいなと思っている。

（参加者）

・お米の消費にも繋がりそうだ。

・朝ごはんを食べない子もいるようなので，いいことだと思う。

・その他の意見に入れたままなのはちょっともったいない気がする。

（参加者）

・学校で朝ごはんを食べるということか。

（参加者）

・「朝ごはん給食におにぎりを」を追加しては。

（参加者）

・「食の重要性を多くの人に伝える（食育，朝ごはん給食）」という意見から切り離して，「朝ごはん給食におにぎりを」を付け加えるのがいいと思う。

（参加者全員）

・異議なし。

（参加者）

・そこに季節の野菜も混ぜ込む，例えばさつまいもご飯などと発展していくとなおさらいい。

（参加者）

・知り合いにこういう会議に参加していると話したところ，買物公園に地場の生産物を使ったお店を増やしてほしいと言われた。スイーツとか。自分もそれが地元の農産物でできたらさらにいいと思った。

（参加者）

・中心部に地場の野菜を使った店づくりみたいな感じだろうか。

（参加者）

・地場野菜を使った惣菜屋さん（テイクアウト）と飲食店（イートイン）と青果販売店などが集中していると，店は食材をそこで購入できて，お客様は季節の地元の農産物が食べられる。『旭川はれて』の地元野菜専門バージョンみたいな事ができれば，目立つと思う。

（参加者）

・最近，無人の野菜販売店ができたようだ。

（参加者）

・銀座商店街の柿崎青果店さんが，１条通と環状線東光の２か所で２４時間の無人販売店を始めたようだ。

（参加者）

・通常の直売所だと売り子が張り付いていないとならないので大変だ。

（参加者）

・コロナのこともあるし，無人というのは利便性が高そうだ。

（参加者）

・中心部の方だけではなく，郊外の方が来ることを考えると車を利用するので，駐車場を完備した場所があるとよい。

（参加者）

・駐車場とする敷地や諸々の条件を考えると市場が思い浮かぶかもしれない。

・市場側からすると困ることもあるが，築地の小さなバージョンみたいにできたら面白いかも。

（参加者）

・それはすごくイメージがいい。

（参加者）

・市役所新庁舎に直売所などのスペースがあるといい。

（参加者）

・新庁舎のイベントスペースでできたらいいと思う。

（参加者）

・新庁舎の食堂で旭川の食材を使ってもらいＰＲができるのではないか。

（参加者）

・中心地だとＪＡ上川ビルの１階の食堂では，上川地区の女性部と青年部で地場野菜を使ったレシピを考えて，それをビュッフェメニューの中の一つとして週替わりで出している。旭川市も同じようにできるのではないか。

（参加者）

・「新庁舎で地場産品を」という感じで追加するのはどうだろうか。

（参加者）

・新庁舎という文言はあったほうがいい。「旭川の生産物を使った料理のイベントを開催する」ような感じで追加して良いか。

（参加者全員）

・異議なし。

⑷　スライドの内容確認

報告スライド（案）に記載される内容について確認し，特に意見はなかった。

⑸　参加者感想

・もっと回数をやりたかったと感じている。自分が思っていることも言ったし，色々な角度から色々な意見を聞けたのが，新しい目線が見つかったような気がして，これからの自分の経営の選択の幅がすごく広がったなと感じている。

また，他分野との関わりというか，農業をどういう目線で見ているのだろうか，何を求めているのだろうかとか連携できるとまた幅が広がって面白くなったのかなと思う。

・色々新しいこととか教えてもらったことが刺激になった。もっともっと時間があればもっと色々

な意見が出てきて，すぐ実現できる具体的なこともできたと思う。
今まで農業をやってきて思っていたことをこの場で意見し，それが市長に伝わり，今後変わっていくかもしれないと思うと，すごくわくわくするのと同時に責任重大だと思った。とても楽しかった。

・初めて会う方と色々な話ができて楽しかった。もっと農業について話したかったし，２０３０年のことを３，４回の会議で決めてよかったのだろうかと心配になる部分もあるが，本当に楽しかった。
視野が広くなる事が聞けたので，自分の今後にも活用できることや，自分もこの先，楽しくなることができるかなと感じている。
今回提案したことを市長が真剣に考えてくれて，一つでも二つでも，より多く実現できることを願っている。

・農業をやった事がない身で参加して，正直分からない単語もいっぱいあったが，知らない事が知れて，すごく楽しかった。作り手のこだわりも知ることができて，今後，販売の仕事とかで生かせそうだと思った。
この会議で出た意見を実行まで持っていけるくらい回を重ねて，何か一つでも実現できるとよかったなとは思う。

・最初はあまり積極的ではなく，話をもらった時は自分に向いてないと思っていたが，同じ農家でも違う話や他業種の話が聞けて，勉強になることもあった。
今日の結果が，２０３０年に何か一つではなく，全部が実現できたら，将来，私たちの後を担ってくれる人たちは幸せだろうなと思った。とても楽しかった。

・みなさんのそれぞれに素晴らしい意見があり，お話が聞けて本当に勉強になった。みなさんとの時間は宝物のようで共有できたことは本当にうれしく思う。参加させてもらえてありがたい。
定年がなく長く続けることができる農業は素晴らしいもので，自分も２０３０年はまだまだ現役でいるつもりであり，長く続けてきた中で今が一番楽しいと言えるぐらい農業は楽しい。若いみなさんにはガンガン頑張っていただきたいし，自分も頑張りたいと思う。

・色々な視点の話が聞けたのは，新たな気づきがありよかった。２０３０年に向けて，旭川市民，特にお子さんたちに「旭川市の農業はこうだ」というのを伝え潜在意識の中に浸透していく形になるといい。そうすることでしっかりした土台ができるなと感じている。

・少しでも多くの旭川産のものを食べてほしいと思い，地場のものを使った飲食店をやっていて自分なりに勉強しているが，今回参加して色々教えていただいたので，もっと作っている方の気持ちものせて提供していきたいなと感じた。
農業を知れば知るほど好きになるし，みんなにも好きになってもらいたいなと思った。これから農業は本当に宝物になっていくと思っている。旭川市民が農業は大事だと思うように繋がったらいいなと思った。

・今回のことが１０年後に未来の農業であったり，子どもたちの幸せの基盤になればよいと思っている。作るみなさん，売る側の人たち，それを食べてもらう人たち，全員が幸せになるというのが，今回の会議の目的だったと思っている。
作り手のみなさん，違う業種のみなさんのお話も色々聞くことができ，本当に勉強になることがたくさんあった。

・進行役をやらせてもらったが，みなさんに助けられたと感じている。今回，色々な話を聞いて，

自分の経営に生かせるなと思ったし，一人で経営しているとどうしても考え方が凝り固まってしまいがちだが，自分の考えが変わることもたくさんあって，非常にためになった。みなさんと出会えたことは良かったと感じている。
この会議が最後ではなく，１１月１日に市長への報告という大事な仕事があるので，みんなの思いが伝わるように頑張ろうと思う。